〈講演Ⅰ〉 司会：髙塚　浩由樹（日本大学国際関係学部准教授）

カミュの作品における「愛」

三野　博司

【要旨】

カミュの名は『異邦人』と『ペスト』によって知られており、この二つの小説は、それぞれ不条理および反抗を主題とした作品群に属している。彼はそれに続く第三の「愛」の作品群を構想していたが、早世のため未完に終わった。しかし、愛の主題はカミュの全作品の根底にある。そこにおいて「愛」がどのように描かれてきたのかを、第1章「生きることへの愛」、第2章「恋人たちの愛」、第3章「母と息子の愛」にわけて考察する。

【プロフィール】三野博司（みの・ひろし）：京都大学卒業。クレルモン＝フェラン大学博士課程修了。奈良女子大学名誉教授。国際カミュ学会副会長および日本カミュ研究会代表。著書に、*Le Silence dans l'œuvre d'Albert Camus* (Paris, Corti) があり、カミュに関するフランス語の論文を *Études camusiennes, Revus des Lettres modernes, Présence d'Albert Camus* に発表している。日本語の主な著書には、『カミュを読む――評伝と全作品』『カミュ「異邦人」を読む』『カミュ、沈黙の誘惑』、『「星の王子さま」の謎』『星の王子さま事典』『「星の王子さま」で学ぶフランス語文法』、『新リュミエール』（共著）がある。また主な訳書に、カミュ『ペスト』、シュペルヴィエル『沖の少女』『ノアの方舟』、エリック・ファーユ『みどりの国 滞在日記』がある。